



# まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に歩む学校

令和6年1月30日

豊玉中学校だより No. 9

【E-mail】shimura.osamu@nerima-ky.ed.jp

【URL】<http://www.toyotama-j.nerima-ky.ed.jp>

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

今年のお正月はいかがお過ごしだったでしょうか。親戚周りをしたりスキーなどのウィンタースポーツや旅行などを楽しんだりできましたでしょうか。昨年末から今冬は暖冬で暖かい日も多かったですが、さすがに「小寒」や「大寒」となると冷え込みも厳しくなってきました。練馬区内の中学校ではインフルエンザのため学級閉鎖を行っている学校もあります。またコロナ感染症も第10波を迎えたとの報道もあります。寒いですが手洗いや換気といった予防を続け、くれぐれも体調には気を付けたいものです。

さて、年明け早々元日の夕刻に能登半島地震が発生し多くの方がお亡くなりになり、また不自由な避難生活を余儀なくされている方々がたくさんいらっしゃいます。始業式を始める前に全校で黙禱を捧げました。亡くなった方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、一日も早く被災された方々の日常が取り戻せるよう能登の復興を心からお祈り申し上げます。

そのような中、豊玉中学校は無事に3学期を迎えることができ、始業式で全校生徒に会うことができ、喜びとともに感謝の気持ちをもちつつ、生徒に向け以下のような話をしました。

## <前半省略>

(被災地に向けて)何か中学生でもできることはないかと考える人もたくさんいるでしょう。まずは家族でよく話し合ってから行動してください。そして私が言えることは、「皆さん一人一人が生命を大切に、今を精一杯生きること、やるべきことをしっかりとやり遂げることが中学生としてできることだ」ということです。

さて話を切り替えて、始業式の話をしします。

あけましておめでとうございます。2学期の終業式で「振り返りをしましょう」という話をしました。2週間に満たない短い冬休みでしたが、しっかりと振り返りを行うことができたでしょうか。振り返りをするとかく悪いことばかり反省し、暗い気持ちになったり、何をしてもうまくいかないのではないかとやる気がなくなったりする人が多くみられます。そんな人たちにオーストリアの心理学者「アルフレッド・アドラー」の言葉を紹介します。一つ目は、

**“未来は自分で決めていける。目的の持ち方で未来は変えられる。過去の解釈の仕方では変えられる。”**以前も話をしたと思いますが、過去は変えることができません。未来を変えていくことならできるのです。自分の考え方で、自分の努力によって変えていくことができるのです。過去の失敗から多くのことを学び、これからの成長に変えていくことができるのです。そしてもう一つ、

**“やる気がなくなった”のではない。「やる気をなくす」という決断を自分でただけである。「変わらない」のではない。「変わらない」という決断を自分でしているのである。”**

自分の行動は自分で決めることができます。逆の言い方をすると、自分のことは自分で決めるしかないのです。最近では親ガチャなどといった嫌な言葉が多く聞かれ、環境のせいにして言い訳ばかり繰り返す人が多くなったと感じています。ぜひ皆さんには他人や周り任せにせず、自分のことは自分で決める、未来の目標に向かって一歩を踏み出す勇気をもってほしいと思っています。

3年生は進路実現に向けて一日一日を大切にしてください。家族も豊玉中学校の先生方もみんなで応援しています。2年生は最高学年、最終学年に入る準備を確実にしていきましょう。特に2年生として最初で最後の宿泊行事、スキー教室に向けて準備を整えていきましょう。1年生はまもなく上級生となります。よき手本となることができるよう努力して続けていってください。1月に行く、2月は逃げる、3月は去るという言葉があるくらいあっという間に3学期は終わってしまいます。夢手帳などを活用して目標に向けて努力していきましょう。そして素晴らしい卒業式、修了式が迎えられることを期待しています。こうしてまた皆さんと会って、話ができただけに感謝し話を終わります。

<3学期始業式式校長講話より>

## ～校内作品展～

主任教諭 井出 一恵

1月13日(土)に校内作品展を開催しました。各教科・総合的な学習の時間・部活動等の表現活動・創作活動の成果の一端を、全校生徒と保護者の皆様にご覧いただきました。個性あふれる個々の作品が体育館中に展示されていました。また、見学中は、笑顔を見せながら友人と作品について語る様子や、真剣な眼差しで作品に向き合う様子が見られました。

閉会式では、校内作品展を振り返り、以下のような講評を校長先生からいただきました。



まず、準備、片付けをしてくれた生徒の皆さんに感謝したいと思います。2学期の終盤から3学期が始まったばかりのこの時期に、学校に残って清掃、机などの運び入れ、作品の展示作業を行い、きれいな会場に見やすく配置してくれて良かったです。ありがとうございました。

一つ一つの作品もよく仕上がっていて、鑑賞態度も良かったので、校内作品展の目的の一つである「教科・領域、部活動等の日々の学習活動の中で取り組んでいることを展示し、鑑賞し合う。」は果たせたと思います。世の中ではよく「中学生なのにすごい！」という言葉が聞かれますが、本当は「中学生だからすごい！」のだと感じられました。様々な着眼点、柔軟な発想力、得意・不得意がある中で、展示発表に向けて仕上げた努力の跡がどの作品からも感じられ、素晴らしいできばえだったと思います。

来年も様々な授業で作品制作をしたいと思います。どうしたらよい作品になるのか、他学年の作品や同学年の仲間の作品を鑑賞して参考になったことでしょう。作品内容は変わるかもしれませんが、今年度の作品展から学んだ事柄を生かして今後の作品制作に臨んでください。これからの皆さんの取組によって目的のもう一つである「作品鑑賞を通して、自らの感性を養い、次の学習に結びつける。」が達成されるものと確信しています。来年以降の作品展がもう楽しみです。皆さんお疲れ様でした。

生徒たちもそれぞれ作品を見学することで、良い刺激となり、次の作品制作への意欲が高まった生徒も多かったです。また、多くの保護者の皆様にご来校いただき、たくさんの励ましのお言葉をいただきました。生徒の感想と保護者のお言葉を一部ご紹介します。



「みんなが工夫したところやどんな思いで作ったのかがわかって楽しかった」  
「一人一人の魅力が詰まっていて、新しい発見がたくさんできた。今回の作品展を参考にしてこれからの作品を作っていきたい」  
「皆の個性が出ていて素晴らしい作品ばかりでした。」  
「授業で頑張った作品を展示してもらえることで、子どもたちのやる気がアップすると思います。上級生の作品を参考に、来年さらに良い作品を作ってください。楽しみにしています。」



生徒玄関に、いただいたお言葉を掲示したところ、生徒たちも嬉しそうに眺めていました。

今後の創作活動への良い励みになったことと思います。短い時間の作品展ではありましたが、多くの皆様にご参加いただき、感謝申し上げます。

PTAの  
皆様へ

今年度より、生徒の生徒による生徒のための活動として、生徒主催の「まがたまプロジェクト」が始まりました。現在、数多くの会議を経て、プロジェクトの成果が形になりつつあります。

先日、生徒・保護者の皆様配布した「豊玉中学校公式キャラクター「まがちい」のファイル」をはじめ、花いっぱい運動などのプロジェクトが進んでいます。生徒が主催のこれらプロジェクトには、PTA活動費より多額の援助をいただきました。この援助のもと、生徒の企画を実現させることができている。PTAの皆様のご理解とご尽力に心より感謝申し上げます。